

【私の感動した本】

弊社の近く大阪・北浜に、幕末の蘭学者・緒方洪庵の「適塾」跡がある。柱の刀傷などが残っていて、往時の

『福翁自伝』
福沢諭吉著 慶應義塾大学出版会



光世証券社長

大 介 Tatumai Daisuke

この本は自伝文学の最高傑作とされ、近代史の貴重な文献でもある。明治維新を背景に、福沢先生の激動

思いを馳せる。生はここで学ばれたのだと思いを馳せる。

塾生たちの血氣盛んな情熱を今に伝えていて。私にとって、幼少の頃から親しみのある場所で、新入社員を必ず連れて行く。そして福沢先生はここで学ばれたのだと思いを馳せる。

この本は自伝文学の最高傑作とされ、近代史の貴重な文献でもある。明治維新を背景に、福沢先生の激動

思いを馳せる。生はここで学ばれたのだと思いを馳せる。

の生涯が天真に描かれている。現代にはこれほど大きなスケールの人物は見あたらない。福沢先生が現代を生きておられたらどんな言葉を発表されるであろうか。基本に立ち返ろうとする時、或いは、折りに触れては読み直し、そのたびに新鮮さを感じられる。私にとってバイブルのようなものであり、まさしく座右に置く一冊である。

五月初旬に開かれたシンポジウムで新旧ジャーナリストが対峙。長くメディアをリードしてきた田原総一郎氏は「今の政治家には答えはない。ジャーナリストが提案していく時代」と自論を披露した。

【書評】
国際政局の最前線で活躍する二十九人の物語
文池本 修悟 (慶應義塾大学DMC機構専門員) text by kennoh shugo

その直後、永田町界隈での「提案」という名の暗躍に斬り込んだ人物こそ、本書の著者・手嶋龍一氏であった。会場の空気は一変。公にされ得ぬ政治の裏側が二人のやり取りの中で開陳されていく様子は、本書で描

かれたキッシンジャーとの緊迫した対話を想起させられた。「ウルトラダラー」から早二年。当りきつてのインテリジェンスオフィサーはルポルターージュと手法を変え、国際政局の最前線で活躍する二十九人に焦点をあてた。毎度手嶋氏の人脈には驚



「葡萄酒か、さもなくば銃弾を」

手嶋龍一著
講談社 1700円+税

かされるが、圧巻なのは、オバマ、ヒラリーの明暗をこの時点で描き切ったこと。デットヒートのさなかヒラリーを「賞味期限」と断じる胆力まさに恐るべし。

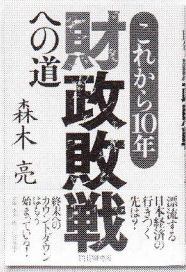
かされるが、圧巻なのは、オバマ、ヒラリーの明暗をこの時点で描き切ったこと。デットヒートのさなかヒラリーを「賞味期限」と断じる胆力まさに恐るべし。

ZAikai LIBRARY



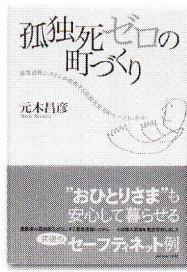
紀伊國屋書店
1600円+税

『経済は感情で動く』
M・モッテルリーニ著
バーゲンでの衝動買いなど人間は想像以上に感情で動くもの。誰もが思い当たる「行動経済学」を紹介する。



PHP研究所
1400円+税

『これから10年 財政敗戦への道』
森木亮著
日本国破産へのカウントダウンは始まっている。平成維新の真つ只中にある日本が財政赤字をなくすには？



ダイヤモンド社
1600円+税

『孤独死ゼロの町づくり』
元木昌彦著
未曾有の高齢社会に突入した日本。一人暮らしの高齢者が安心して暮らせる町づくりに必要なものとは何か。